



イラスト 尾上樹里 (北海道教育大学 大学院生)

異世代教師連携による 保護者支援を語るワークショップ

保護者支援をともに学ぶ教育者ネットワーク
エデュサポネット Educator Support Network
2023 年度版

第1部 世代の異なる教師たちの 学び合いを支えるワークショップ

1 教師たちの自主的自発的な学びとワークショップ

木原(2016)は、教師の能力・資質を育むために、教育現場の問題解決に実践的に取り組むアプローチを5つにまとめています。このうちの1つとして、環境設定アプローチをとりあげています。木原によると、環境設定アプローチとは「教員志望学生や現職教員がその能力・資質を高めるために、それを可能にする「学習環境」を彼らに提供しようとするアプローチである。」と説明されています。そして、このアプローチの注目する概念やトピックスとして、ワークショップ型教員研修の企画や運営が示されています(たとえば、村川, 2016)。学校教師たちが知識や技術を獲得すること、そして問題解決力の向上の機会を得ることができる活動として、ワークショップ型研修に期待が寄せられているのです。

ところで、ワークショップとはどのような活動なのでしょう。堀(2008)は、ワークショップという場は参加者がそれぞれもちよる秘められた知恵とやる気を引き出すとします。そして、知恵とやる気が相乗的な効果を発揮し、予想もつかない力を生み出していくといいます。参加者が自由に対話できる関係づくりと少しの後押しをファシリテーターが行うことで、その集団が本来もっている力を解き放ち、自ら変革していけるというのです。このような特徴から、堀はワークショップを「主体的に参加したメンバーが協働体験を通じて創造と学習を生み出す場」としています。また、ワークショップの5つの要素として、①参加、②体験、③協働、④創造、⑤学習、をあげています。

堀によると、ワークショップという方法は、特定の誰かが開発したものではありません。そして、中野(2017)はワークショップの原点として、ネイティブ・アメリカンの輪(サークル)になって座り、一緒に創る活動を紹介しています。輪になって座り、一緒に食べ、話し、踊り、すぐに答えが出ない難問や正解がない問題を、みんなで一緒に知恵を出し合い、年齢や経験の差を超えて、対等な関係で考えていこうとすること、それがワークショップの本来の意味であると、中野は説明しています。

保護者支援という最初から正解のある問題とは異なる臨床的課題にアプローチするには、たとえば保護者の希望や学校が対応可能なことはなにかという多様な観

点を検討し、現実的な対応を探ることが肝要です。したがって、参加者の経験が活かされ新たな知を創造していくワークショップが保護者支援の研修として有益であると考えます。



イラスト 尾上樹里(北海道教育大学 大学院生)

2 ワークショップの基本

ここでは、一般的なワークショップの概要についてお伝えしていきます。ワークショップには、参加する人たち、プログラム、そして活動を進行していくファシリテーターと呼ばれる人がいます。堀(2008)は、ワークショップを構成するこれら3つの要素を次のように説明しています。

- ①チーム(グループ) どんな人をどんな場に集めるのか?
- ②プログラム どんなシナリオに沿って活動を進めるのか?
- ③ファシリテーター その場で活動をどのように舵取りするのか?

そして、堀はワークショップを実施するには、参加者の**安心できる場**をつくることがファシリテーターに強く求められるとします。ワークショップでファシリテーターが心得る3つのルールがあります。

- ①互いを尊重する
- ②参加者の主体性を尊重する
- ③段階を踏んでレベルを上げる

また、中野(2017)、川嶋・中野(2018)は**創造的な対話**を活性化するために、ファシリテーションの基礎スキルとして5つを考えています。そして、話し合いの場を和気あいあいとしたなごやかな雰囲気にしてくれるツールを大切にしています。

- ①場づくり
- ②グループサイズ
- ③問い
- ④見える化 思考や対話の見える化
- ⑤プログラムデザイン 時間の設計, 空間の設計, 関係性の設計(ひとりで考えるのか, グループで考えるのか)

異世代, 異校種の学校教師たちという多様性のある参加者を対象にする私たちのワークショップでは、何よりも**安心できる場**をファシリテーターが参加者と一緒に創りあげていくこ

とが必要になります。そして、保護者支援の経験というセンシティブな内容が語られる場では、語られた内容を大切に扱っていかねばなりません。

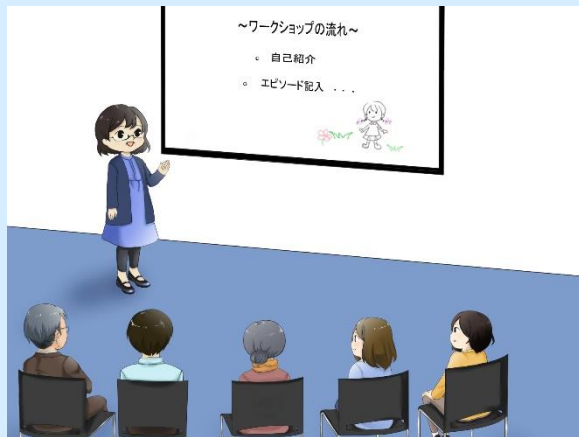


イラスト 尾上樹里 (北海道教育大学 大学院生)

第2部 保護者支援を語る

ワークショップの実際

次に、私たちが考案したワークショップのプログラムを紹介していきます。異世代、幼稚園、小学校や中学校といった異校種、そして、通常学級の担任、特別支援学級の担任や養護教諭、校長といった先生方に一緒に参加いただけるように、参加者の多様性に対応できるプログラムとしています。もちろん、熟年の先生方同士での語り合い、養護教諭の先生同士の語り合いという共通性の高い参加者同士でも実施いただけます。

なお、私たちは対等なごやかな対話ができるように、輪（サークル）の形態を追求してみました。

1 ワorkshopの趣旨

今日、未来を担う子どもたちの成長を支えるために、学校と地域社会、そして家庭の連携・協働が必要とされています。しかし、地域の結びつきが弱くなり、経済的格差が広がるなかで、多忙で親子の時間をつくれな、経済的に困窮している、保護者に心身の疾患がある等のことで子育てに難しさを抱える家庭が増えています。このような状況におかれている保護者たちとのかかわりを、学校教師はどのように進めていったらよいのでしょうか。

学校教師は、お互いに経験を語り合うことで課題を解決していくとされます。このワークショップでは保護者とのかかわりについて、その経験を4、5名のグループで一人ずつ順番に語りながら交流していきます。先輩や同輩、後輩の先生方、そして異校種の先生方同士で経験を語り合い、保護者支援を考えていきます。

2 ワークショップのねらい

3つのねらいがあります。

- ① 世代の異なる先生たちで保護者支援の経験について語り聴き合い、保護者支援で困っていることを交流し合います。<困っていることを聴いてもらうことで、気持ちが楽になります!>
- ② 世代の異なる先生たちに保護者支援の経験を語り聴いてもらうことで、自分の経験をふりかえります。<困ったことをことばにして他の先生に語ることで、困った経験を整理することができます!>
- ③ ①と②を通して、明日からの保護者支援をがんばろうという気持ちをもてるようにします。

3 ワークショップの流れ

ワークショップを実施する時間を、約3時間としました。これは、ワークショップのねらいを達成するために、あるいは多忙な学校教師が自主参加するのに無理のない時間の長さとして、土日祝日の半日、平日の就業後に捻出できる時間から考えました。公的な研修であれば、講義を組み入れるなどして1日のプログラムにすることもできます。

- ① オープニング（15分）趣旨説明、グループづくり
- ② 自己紹介（20分）グループごとに自己紹介
- ③ 保護者支援の経験のふりかえりシート記入（15分）個人作業
- ☆ 休憩 ☆（10分）
- ④ 1ラウンド 保護者支援の経験交流（15分）一人目の語り
- ⑤ 2ラウンド 保護者支援の経験交流（15分）二人目の語り
- ⑥ 3ラウンド 保護者支援の経験交流（15分）三人目の語り
- ⑦ 4ラウンド 保護者支援の経験交流（15分）四人目の語り

- ⑧ グループ内での全体交流(15分)
- ⑨ 経験交流のふりかえりシート記入(10分) 個人作業
- ⑩ 経験交流の分かち合い(30分)
- ⑪ クロージング(10分) グループからの報告

4 グループの人数

私たちのワークショップでは20名程度の参加者を想定しています。この場合、メインとなるファシリテーターを1名、サブのファシリテーターを1~2名とするとスムーズに運営できます。

1グループ4名とし、4名で割り切れない場合は1グループ5名で実施します。この場合、5人目の語りを「3 ワークショップの流れ」にある「⑧ グループ内での全体交流」にあてることがができます。

5 場づくり

会場は、面積が少し広い部屋(各グループが椅子に座って、互いに邪魔にならない程度の広さを必要とします)を用意します。会場の最初のレイアウトは、人数分の椅子を1つの輪になるように置きます。そして、入室した方から順次座っていただくようにしています。なお、机が用意されている部屋の場合は、机を壁にそって置いておき、ひとりでふりかえりシートを記入したいという参加者が使えるようにしておきます。

時間に余裕がある場合は、参加者全員でこれらの会場づくりを行うのも良いと思います。

グループ分けが終わった後は、グループごとに椅子を持って集まってもらい、円形のダンボール板「えんたくん」*を使って、経験の交流を行っていきます。

「えんたくん」*とは、川嶋直氏らが考案し、2013年に誕生した直径1メートルの円形ダンボール板です。対話を促進するツールとして開発されたものです。えんたくんのメリットの1

つとして「世代や立場といったふだんの上下関係を、話し合うテーマに向けた「対等」な関係にリセットできること」と、中野(2019)は説明しています。

6 準備するもの

- ・ 「ワークショップの趣旨・ねらい」～各自に1枚
- ・ 「保護者支援の経験のふりかえりシート」～各自に1枚
- ・ 「経験交流のふりかえりシート」～各自に1枚
- ・ 「ワークショップの流れ」「語り合いの約束」を書いた模造紙(パワーポイントで作成することもできます)
- ・ えんたくん～グループ分
- ・ グループの記入用紙(えんたくんの上に載せて使います。参加者が気づいたことなどを記入していきます)～グループ分
- ・ マーカー～5色程度のセットをグループ分
- ・ A4の用紙～人数分
- ・ 鈴(ラウンドの切り替えに使います)～1点

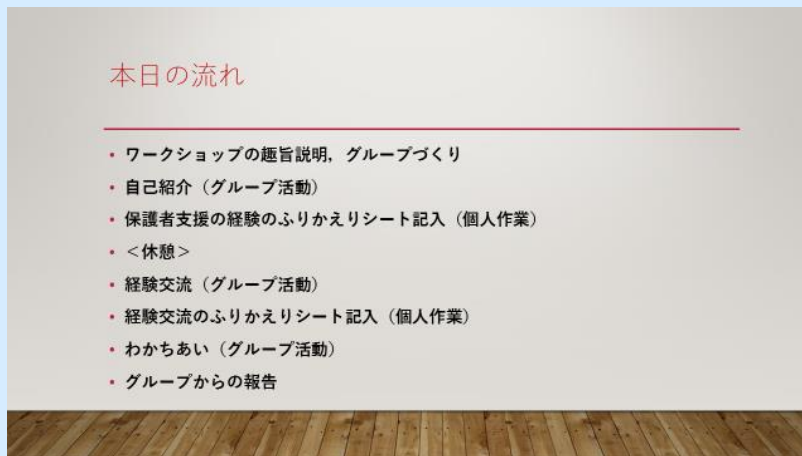
ワンポイントアドバイス!

この他に、筆記用具、メモ用紙等を適宜必要数、用意できるといいです。また、大きめの時計を用意しておく、参加者と時間を確認し合いながらワークショップを進めていくことができます。

7 事前の準備

グループ分けを行うために、事前に、参加者の氏名、教職経験年数と勤務している学校種を一覧にしておきましょう。

「ワークショップの流れ」「語り合いの約束」を模造紙に書いておきましょう。パワーポイントで作成することもできます。



8 ワークショップの進行

8-1 オープニング(15分)

ワークショップを開催する趣旨説明を行い、合わせてワークショップのねらいを説明します。参加者が学校において課題意識をもっている保護者とのかかわりについて、異世代、異校種の教師たちが語り合うことで、今後の展望をもてるようにすることを、ファシリテーター自身のことばでわかりやすく説明していきます。

趣旨とねらいを書いた用紙を配布し、それを使い説明していくこともできます。

次に、ワークショップの流れを説明し、参加者にワークショップのイメージを持ってもらいます。

ワンポイントアドバイス!

趣旨とねらいの説明は、わかりやすく短い時間で行っていくことが大切です。ここであまり時間をかけずに、次のグループ分けに移行し、開始からあまり時間がたたないうちに、参加者の動きをつくっていくことで、参加者の自発性・自主性を引き出すようにしましょう。

1 グループ 4 名を基本としますが、割り切れない時には 5 名のグループをつくりま
す。グループ分けは、1 つのグループが若手、中堅、熟年という異世代、そして、幼稚

園, 小学校, 中学校, 高等学校, 特別支援学校という異校種の教師たちで構成できるように行います。グループ分けは事前にファシリテーターが行っておくとスムーズにワークショップを運営出来ますが, 参加者の自主性・自発性を大切にするには, たとえば事前に若手の教師だけをファシリテーターがグループに分けておき, ワークショップを始めてから, まず中堅教師に異校種の若手教師がいるグループを探して入ってもらい, 最後に熟年教師にグループを選んで入ってもらうという方法も考えられます。

グループのメンバーが決まったら, 参加者に椅子をもってグループごとに集まり小さな輪をつくって座ってもらいます。それぞれのグループにえんたくとその上に載せて使うえんたくんと同じ大きさの記入用紙を, 1 セットにして渡します。グループはそれをひざの上に載せて, 語り合う場をつくります。合わせて, マーカーも 1 セット渡し, 好きな色を選んで使ってもらいます。

ワンポイントアドバイス!

川嶋・中野 (2019) ではえんたくんを使うときに 3 つの約束「よく聴こう・短く話そう・ことばを書き留めよう」を設定し, えんたくんの中央に書いてもらいます。私たちのワークショップでは, このうち「よく聴こう」「ことばを書き留めよう」を伝えます。

8-2 自己紹介 (20 分)

グループで自己紹介を行います。この自己紹介は, この後続く, 保護者支援の経験交流に向けた活動になります。グループのメンバー同士がお互いに関心を持ち, 安心して語り合えるように自己紹介を行います。

中野 (2017) が, 大学授業で行うグループワークで実施している自己紹介の方法を参考にして, 自己紹介を考えています。参加者各自が A4 の用紙を 4 つに折って, 1 つ 1 つの枠の中に次のことをそれぞれ記入していきます。そして, これを使って自己紹介をします。

自己紹介の方法は, 多様な方法を考えられますので, ファシリテーターが工夫してみましよう。

ワンポイントアドバイス！

グループのメンバーのことを理解し合い、このメンバーたちだったら、このような保護者支援の経験をお話しようと思える自己紹介の内容、方法を考えましょう。メンバーの顔触れによって、お話をしたいと思う保護者支援の経験はかわるかもしれません。

8-3 保護者支援の経験のふりかえりシート記入

(15分)

ここでは、経験交流を行うために、参加者ひとりひとりが保護者支援の経験を思い出しながら、ふりかえりシートを記入します。ファシリテーターはグループのメンバーに話をしたいと思う保護者との経験を思い出してもらえるように伝えます。そして、シートに書いたことを、グループの中でひとりずつ順番に発表することをファシリテーターは伝えます。

保護者支援の経験のふりかえりシートには、次の6つの項目を入れてあります。

- ①その保護者とどのようなことがありましたか？
- ②その時のあなたの感情や思いはどのようなものでしたか？
- ③その時にあなたはどうしたかったのですか？
- ④その時の保護者の思いはどのようなものだったと思いますか？
- ⑤保護者とあなたの認識や思いにズレはありましたか？
- ⑥他の先生方にアドバイスをして欲しいことがあれば記入してください。

ワンポイントアドバイス！

記入時間を15分としていますが、この後に休憩時間を入れてありますので、ゆっくりと進めていきましょう。経験した当時の感情や思いが呼び起こされ、文字にして書き記すのに少し時間を必要とする場合もあるかもしれません。

保護者支援の経験のふりかえりシートと経験交流のふりかえりシートは、それぞれの先生が自分でふりかえりを行うためのものです。シートに記入したものを他のメンバーに見せたり、ファシリテーターがシートを見たり集めたりすることはありません、ということを最初に伝えておきましょう。

8-4 保護者支援の経験交流(60分)

保護者支援の経験交流をグループごとに行います。まず、経験交流の約束を確認します。

- ①お互いの経験、考え、感情を大切に交流しましょう。
- ②発表者が語り終る最後まで聴きましょう。質問は、発表者の話しが終わってからにしましょう。
- ③質問をされても話したくないことには、応えなくて結構です。

ノーコメント!OKです。

- ④語ったこと、語れたことはここで閉じていきましょう。

経験交流をひとりずつ順番に15分で語っていきます。発表を交代する合図として、鈴を鳴らします。4人のグループは、全員が語り終わった後に全体交流を行います。5人グループはそのまま最後のメンバーが語ります。

グループで経験を交流しましょう。

- | | | | |
|----------|-------|----|---------------|
| 最初の15分間 | ひとりめ | 発表 | 1番目に教職経験の長い先生 |
| 次の15分間 | ふたりめ | 発表 | 3番目に教職経験の長い先生 |
| その次の15分間 | さんにんめ | 発表 | 1番教職経験の短い先生 |
| 最後の15分間 | よにんめ | 発表 | 2番目に教職経験の長い先生 |

- ・※経験交流の約束を決めます。
- ・※思い浮かんだことを「えんたくん」に書き留めましょう。

ワンポイントアドバイス!

経験交流の約束は、大切な経験を安心して語り合うために必要なことです。ファシリテーターは、参加者が安心して語り合っているかに気持ちを向けましょう。

発表の順番は、グループで決めてもらうこともできますが、若手教師が話しやすいような状況をつくりましょう。

8-5 経験交流のふりかえりシート記入(10分)

経験交流のふりかえりを個人で行います。ふりかえりシートには次の項目があります。

- ①どれ程、自分の経験を伝えることができましたか。
- ②どれ程、他の先生の話聴くことができましたか。
- ③どれ程、他の先生に自分の経験を聴いてもらえたと思いますか。
- ④他の先生たちの経験を聴いて、どのようなことを考えましたか?
- ⑤保護者支援で、これから大切にしていきたいことはどんなことですか?

- ⑥後輩の先生に保護者支援についてアドバイスしたいことはどんなことですか？
- ⑦その他、経験交流の感想を自由に書いてください。

ワンポイントアドバイス!

問い、つまり保護者支援の経験のふりかえり、経験交流のふりかえりの項目は、ワークショップでの学びを深めることにつながります。

異世代の教師たちの語り合い、学び合いが深めるふりかえりの項目をファシリテーターが工夫してみましょう。

8-6 経験交流の分かち合い(30分)

経験交流のふりかえりシートを使って、ふりかえりを行います。

そして、最後にグループのメンバーへのメッセージをえんたくんに書き入れ、メッセージを伝え合います。



文献

堀公俊(2008) 日経文庫 ワークショップ入門 日本経済新聞出版社

川嶋直・中野民夫(2018) えんたくん革命, 1枚のダンボールがファシリテーションと対話の世界を変える みくに出版

木原俊行(2016) 第1章教師教育と教育工学の接点, 教育工学的アプローチによる教師教育の今日的展開 日本教育工学会監修, 木原俊行, 寺嶋浩介, 島田希編著 教育工学選書Ⅱ10, 教育工学的アプローチによる教師教育, 学び続ける教師を育てる・支える ミネルヴァ書房

村川雅弘(2016) ワークショップ型教員研修, はじめの一步 教育開発研究所

中野民夫(2017) 学び合う場のつくり方, 本当の学びへのファシリテーション 岩波書店

植木克美, 渡部信一, 川端愛子, 後藤守(2017) 小学校教師の保護者対応における変容プロセスと世代継承 日本教育工学会研究報告集 JSET17-5:239-246

植木克美(2017a) 第1章 熟年教師が語る「見えない能力」の教育と評価 渡部信一編著 教育現場の「コンピテンシー評価」, 「見えない能力」の評価を考える ナカニシヤ出版

植木克美(2017b) 「印象に残った保護者」とのかかわりにおける小学校教師の成長と世代継承, 熟年教師と若手教師の事例比較 教育情報学 16:21-34

保護者支援とともに学ぶ教育者ネットワーク エデュサポネット Educator Support Network

連絡先

〒002-8501 札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号

北海道教育大学大学院学校臨床心理専攻 植木克美研究室

ueki.katsumi@s.hokkyodai.ac.jp